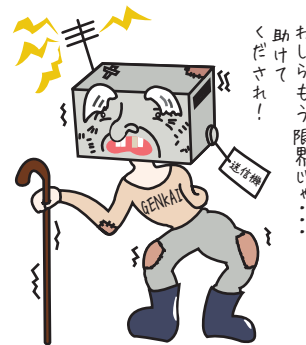


19年間も働き続けた送信器がもう限界・・・。

放送機器購入のため 寄付をみんなで集めます!

キャンペーンキャラクター
送信機ジィ



神戸市長田区の多文化コミュニティ放送局FMわいわいです。

震災20年を迎えるにあたり、
皆さんにお願いがあります。

2015年1月17日に阪神淡路大震災20周年を迎えます。

FMわいわいは、震災直後から小さな声をコミュニティに届け、
多文化共生のまちづくりに取り組んできました。

2014年8月10日、台風が神戸を直撃した日、FMわいわいの送信機が止まり、三日間、放送を流すことができない大きな事故が起きました。

阪神淡路大震災の翌年に正式開局してから休みなしに働き続けて来た送信器が、19年の月日を経て体力の限界を迎えていたのです。

FMわいわいの放送機器(送信系)はすべて15年を超えるベテラン機材。

いずれも個人や財団からの支援金で購入し、放送を縁の下で支えてきた機器達です。しかし、こうした機器もそろそろ現役引退の時期に来ていることが、今回の事故後の調査でわかりました。

地域防災の観点からも設備の安定化が求められています。

さらに、このほど放送法が改訂され、これまで以上に放送機器の整備がコミュニティ放送局に課せられるようになりました。その基準をクリアしないと、放送免許の更新(2015年11月)ができません。

これからも放送を続けていくための寄付をお願いします。

FMわいわいが電波をまちに届けた月日は7000日を超えています。

さまざまな違いを超えて、いろいろな人達が参加できるラジオ局、それがFMわいわいです。

放送機器の購入資金をみんなで一生懸命に集めて、阪神淡路大震災から20年以上も活動を続けていきたいと強く願っています。ご協力をよろしくお願いします。

20年に向けて、寄付集め、いっしょにやりましょう!!



「95年夏から、まずは写真係として、わいわいにお邪魔し、今も木曜4時からの番組を手伝っています。

『放送機器も相当のベテランだったんだ!』

と、感心しきりです。8月10日の同じ日、わだかんの父が台風11号とともに他界しました。『去るもの』と『引き継がれるもの』、人と機器がダブって見えてくるのです。」

和田幹司さん

1995年からFMわいわいにボランティアスタッフとして関わり続けている。現在、FMわいわい「アフタヌーンねね」、「ゆうかりに乾杯」パーソナリティ。毎年開催される阪神淡路大震災メモリアルイベント「1.17KOBEに灯りをinながた」で実行委員長も務める。

何に **どれだけ** お金が必要なの??

送信所の設備

19年選手の送信機と入れ替えます。

これをしないと使えません...

▶送信機一台...**30**万円

▶送信機検査のための費用...**50**万円

▶送信機自動切換機...**55**万円

▶監視装置...**20**万円+**8**万円=**28**万円

故障時、2台目の送信機に切り替えます。

音声が送信所に届いているかなどを監視します。

送信所とスタジオをつなぐ設備 (中継設備)

▶コーデック...**30**万円×2台=**60**万円

送信所とスタジオに一台ずつ設置します

スタジオ

▶パソコン6台...**80**万円

▶ネットワーク機器(ハブ・ルーター)...**8**万円

総額 **311**万円が必要なのです!

寄付&参加のしかた

寄付をするには...添付の振込用紙に必要な事項などをご記入のうえ、お振込ください。

参加をするには...お知り合いの方に (FMわいわいに関わっている方、関わっていない方にも) このことを伝えてください。